

## 「新産業を生む科学技術」選考講評

選考委員長 長田 義仁

科学技術には新しい価値を創出し、より豊かで多様性ある社会を実現する力があります。本プログラムは自由な発想で旧来の枠を超えた独創的・革新的な科学と技術を創出することによって社会にイノベーションをもたらす研究を助成することを目的としています。

第14回目の募集となる今回も多く応募がありました。医療、生命、材料、デバイス、ICT、ロボティクス、環境、エネルギーなど非常に広い分野から応募がありました。応募者の年齢は20歳代から70歳代まで広く分布し、女性の応募者は17名でした。例年にも増して高いレベルの魅力ある提案を数多く頂きました。

応募いただいた提案書は様々な分野からなる学識豊かな選考委員14名によって慎重に審査されました。事前に、分野、年齢、性別、地域などの配慮をしないことを確認したうえで、自由な発想に基づく創造性ある構想か、先駆的で高い水準の研究か、新産業を生み出し豊かな社会を実現する構想か、といったことを重要な視点と

して審査しました。また、既存の学問の枠を超えて社会が求める新しい領域を切り開く構想か、といったことにも留意して議論しました。

これらの提案に対し選考委員は丁寧に、そしてオープンに議論を重ねました。提案書に基づく1次審査、研究者のプレゼンも交えた2次審査を経て、最終的に11名（女性は2名）の研究者の提案を採択いたしました。医療、計測解析、ICT、エネルギー問題など、いずれも現代社会が抱える喫緊の課題に果敢に挑戦する提案です。選考委員一同は現代社会が求める、あるいはそれを先取りするような先駆的な提案課題を選ぶことができたと考えております。

研究とは極めて個人的で孤独な作業ですので、精神的肉体的負担も大きいのが通常です。そのようなことを考え、キヤノン財団は課題採択後も随時、研究者を訪問して相談相手となり、予算使途や研究課題について研究者の立場に立って柔軟に対応しております。また、研究途上で予期せぬ問題などが生まれれば選考委員らと共に問題解決を図るようしております。

めでたく採択された研究者の皆さんは、このような機会をできるだけ活用しながら失敗を恐れず自ら描いた構想に果敢に挑戦してその実現を目指して欲しいと思っております。